

Financial Planner

3級FP

基本テキスト体験版

FP技能検定3級

掲載内容

I ライフプランニングと資金計画

はじめに・テキストの使い方

このテキストは、はじめてF Pを学習する方が、できるだけ効率よく各科目の基本的知識を身につけられるよう、過去問題を徹底的に分析し、頻出論点・重要論点に絞って編集しています。3級合格を目指す方だけでなく、2級以上を目指す方のF P入門編としてもご利用いただけます。

F Pの学習分野はとても幅広いものです。3級の学習範囲は2級の学習範囲とほぼ同範囲となっていますので、3級といえども満点を目指すためには、2級レベルの詳細な知識が必要とされます。しかし、はじめてF Pを学習する場合には、細かい知識よりも基本的知識や重要論点をしっかり（広く浅く）理解することが何よりも大切です。

また、F Pの学習分野は生活に身近なテーマが多くなっていますので、できるだけ身近な例で考えるようにし、興味を持って楽しく学習することも合格の秘訣です。

◆◇はじめて学習するとき◇◆

Stepup やく参考>は飛ばしても構いません。まずは、各科目の全体像を広く浅くイメージがつくように、用語や考え方をチェックしながら学習してください。

◆**ケーススタディ**は、重要ですから、必ず解くようにしましょう。特に計算問題は電卓を使用してパターンを身につけてください。

◆◇復習するとき◇◆

Stepup やく参考>にも目を通して理解を深めましょう。ただし、2級以上で詳細に学習する事項も含まれていますので、わからなくてもあまり気にしないで学習を進めてください。また、各科目の章末には、基本的知識を確認する**理解度テスト**（○×問題）と、過去問題（学科試験）の出題例

過去問にチャレンジ を載せています。間違えた問題はテキストに戻って知識を再確認しましょう。

テキストの記載について

F P 試験の学習内容の6分野は、それぞれ独立しているのではなく、相互に関連しています。本テキストでは6分野を1冊にまとめ、分野間で参照できるよう側注に参照ページを記載しています（科目名は下記のように省略して表記）。分野間の横断的な学習と理解が可能なテキストになっています。

A分野：ライフプランニングと資金計画・・・	『Ⅰ ライフ』
B分野：リスク管理	『Ⅲ リスク』
C分野：金融資産運用	『Ⅳ 金融』
D分野：タックスプランニング	『Ⅱ タックス』
E分野：不動産	『Ⅴ 不動産』
F分野：相続・事業承継	『Ⅵ 相続』

◆◇本教材中のマークについて◇◆

★～★★★★

テーマごとに重要度を★の数でランク付けしています。



学科

過去の学科試験（2013年5月試験から2015年1月試験までの6回）で、3問以上出題されている内容です。最優先で学習しましょう。なお、このマークがなくても、文字がゴシックになっている箇所は重要論点です。



実技

実技試験特有の「よく出題されやすい論点」です。実技試験対策には欠かせない論点ですから、必ず理解するようにしましょう。実技試験は計算問題が多いのも特徴です。実際に電卓を使用して問題に慣れてください。

Stepup

2級以上で詳細に学習する事項です。まずは本文の重要事項を理解することが重要ですから、このマークのある箇所が理解できなくても気にしないでください。

<参考>

学習上、理解の助けとなる事項、参考となる数値、試験範囲には含まれているものの出題頻度が低い事項などです。復習するときに目を通す程度で構いません。

■ F P 技能検定 3 級

【学科試験】◆試験時間：120分

日本 F P 協会・金融財政事情研究会とも共通問題

◆出題範囲

A ライフプランニングと資金計画 / B リスク管理 / C 金融資産運用
D タックスプランニング / E 不動産 / F 相続・事業承継

◆出題形式：マークシート方式（○×式、三択択一式）

◆持込み品：筆記用具および計算器具（プログラム電卓を除く）

※プログラム電卓…あらかじめ計算式が登録されている電卓

◆合格基準：60点満点で36点以上

【実技試験】（選択受検）◆試験時間：60分

〔日本 F P 協会 実施科目〕

・資産設計提案業務

〔金融財政事情研究会 実施科目〕

・個人資産相談業務 ・保険顧客資産相談業務

◆出題形式：〔日本 F P 協会〕 マークシート方式（三択択一式）

〔金融財政事情研究会〕 マークシート方式（三択択一式）

◆持込み品：筆記用具および計算器具（プログラム電卓を除く）

※プログラム電卓…あらかじめ計算式が登録されている電卓

◆合格基準：〔日本 F P 協会〕 100点満点で60点以上

〔金融財政事情研究会〕 50点満点で30点以上

日本 F P 協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-28 虎ノ門タワーズオフィス5F

TEL：03-5403-9700（代表） URL：<http://www.jafp.or.jp/exam/>

03-5403-9890（試験事務課）

金融財政事情研究会【事務局】検定センター

〒160-8529 東京都新宿区荒木町2-3

TEL：03-3358-0771 URL：<http://www.kinzai.or.jp/ginou/fp/index.html>

■ 3級で学習すること

F Pは、顧客のニーズに応えるために、幅広い分野の知識が必要です。F P試験では6分野の学習を通して、実生活に必要な基礎知識およびF Pとして必要な基礎知識を学習していきます。

A分野 ライフプランニングと資金計画

すべての土台となるのは「ライフプランニング（生涯生活設計）」です。特に多額の資金を必要とする人生の三大資金（教育資金・住宅取得資金・老後生活資金）のプランニングはとても重要です。予期せぬ出来事に対処する社会保険、公的年金・私的年金などの知識を学習します。

B分野 リスク管理

生命保険・損害保険・第三分野の保険などのそれぞれのしくみ、商品、税金などの知識を学習します。

C分野 金融資産運用

経済・金融の基礎知識を習得します。さまざまな金融商品がありますが、それぞれの特徴を学習し、効果的な金融商品に投資できる基礎知識を学習します。

D分野 タックスプランニング

「源泉徴収票」の読み取りができるように、所得税の基礎知識を学習します。

E分野 不動産

不動産に関する法令、税金の基礎知識を学習します。

F分野 相続・事業承継

亡くなった方の財産をどう分けるかという「民法」の知識と、それを取得した方が負担する「相続税」の基礎知識を学習します。また、マイホームの頭金を親からもらう場合などに関係する「贈与税」の知識も学習します。

目 次

I	ライフプランニングと資金計画	1
第1章	FP概論	2
Theme 1	FPとは	2
Theme 2	FPの職業倫理・FPと関連法規	3
第2章	ライフプランニングの基礎知識	4
Theme 1	ライフプランニングの考え方	4
Theme 2	ライフプランニングの手法	6
第3章	ライフプランニングと資金計画	11
Theme 1	資金計画と金融商品	11

◆◇復興特別所得税について◆◇

復興特別所得税とは、復興財源確保法により、平成25年から平成49年までの25年間の各年分の基準所得税額に2.1%上乗せされるものです。また、所得税が源泉徴収される場合にも適用されます。

本テキストでは、源泉所得税の税率について、特に指示のない限り、復興特別所得税を考慮しない表示をしています。

復興特別所得税を考慮した合計税率は、次の（例）のように「所得税（%）×1.021」で計算することができます。

（例）20%（所得税15%、住民税5%）の場合

「所得税：15%×1.021＝15.315%」となり、「所得税15.315%＋住民税5%＝20.315%」の源泉徴収税額となります。

本テキストの内容は、原則として平成27年4月1日時点で施行されている法令等に基づいて執筆・編集されています。

I ライフプランニングと資金計画

Contents

- 第1章 F P 概論
- 第2章 ライフプランニングの基礎知識
- 第3章 ライフプランニングと資金計画
- 第4章 社会保険制度
- 第5章 公的年金制度
- 第6章 企業年金・その他の年金

第1章 F P 概論

Theme 1 F P とは

1 F P とは

F P とは、「ファイナンシャル・プランニング」または「ファイナンシャル・プランナー」のことをいいます。

ファイナンシャル・プランニング	ファイナンシャル・プランナー
顧客の家族構成、収入と支出（収支）、資産と負債（財産状況）などのデータをもとに、顧客のライフプラン上の目標を達成するため、問題点の発見と解決策の構築を行い、その実行を援助することをいいます。 特徴は、 中立的な立場から、総合的かつ長期的な視点で設計すること にあります。	ファイナンシャル・プランニングを行う専門家であり、必要に応じて弁護士、税理士、保険・不動産などの専門家等の協力を得ながらその実行の手助けをする役割を担い、 顧客の立場に立って顧客の希望、目標を達成する専門家 です。

2 F P の社会的ニーズ

私たちの生活を取り巻く環境は、日々変化しています。雇用環境や年金制度などの変化だけでなく、私たち自身のライフスタイルも多様化し、ファイナンシャル・プランニングも家計ごとに大きく異なっています。

ファイナンシャル・プランニングは、考慮する項目が多岐にわたり非常に複雑なため、自分自身で行うことが困難ことがあります。このような状況からファイナンシャル・プランニングの専門家である F P のニーズが高まっています。

3 F P の社会的役割

社会保障制度や雇用環境が安定し、ライフスタイルも均質化していた時代には、「生涯にわたるお金の計画」を詳細に考える必要性はありませんでした。

しかし、現在は長期にわたって、自己の判断と責任で資産を形成しなければならない時代になっています。また、日常生活には病気やけがなどのリスクもあり、それらに備えながら夢や希望に沿った生活を実現するために、適切な知識と管理が必要です。

F P は、家計の管理が適切に行われることを支援する「家計のホームドクター」として、家計（パーソナル・ファイナンス）に精通する専門家の役割を担っています。

Theme 2 F P の職業倫理・F P と関連法規 ★★★

1 F P の職業倫理

顧客利益の優先	常に顧客利益を優先しなければなりません。
守秘義務の遵守	職務上知り得た顧客の情報を、顧客の同意なく第三者に漏らしてはいけません。
顧客に対する説明義務 (アカウンタビリティ)	顧客に対して提案内容等を十分説明しなければなりません。その際には、説明内容に関して理解を得た上で、顧客の同意を得る必要があります(インフォームド・コンセント)。
コンプライアンスの徹底	法令遵守(コンプライアンス)の徹底は当然に必要です。

2 F P と関連法規 学科 実技

各種法律の資格を持たないF Pや登録を受けていないF Pは、関連法規に抵触することがないように十分留意することが必要です。

(1) 税理士法

税理士でない者は営利目的の有無、有償・無償を問わず「税務代理行為」、「税務書類の作成」、「税務相談」を個別具体的に行うことができません。なお、一般的な情報・資料の提供や相談を行うことは可能です。

(2) 保険業法

保険募集人*でない者は、保険の募集や勧誘を行うことはできません。なお、一般的な商品内容の説明を行うことは可能です。

「保険募集人」…内閣総理大臣の登録が必要です。

(3) 金融商品取引法* (「投資助言・代理業者*」)

「投資助言・代理業者」は、顧客と投資顧問(助言)契約を締結し、専門的見地に基づく具体的な投資判断(「助言」)を行うことができます。なお、投資判断の基礎資料となるような一般的な情報や資料の提供は、投資助言・代理業者でない者でも行うことが可能です。

「金融商品取引法」…『IV 金融』p.159 参照。

「投資助言・代理業者」…内閣総理大臣の登録が必要です。

(4) 弁護士法

弁護士でない者は、一般の法律事務を行うことができません。弁護士でないF Pが、個別具体的な法律相談を含むプランニングを実行する際は、弁護士を交えて対応する必要があります。

(5) 社会保険労務士法

社会保険労務士でない者は、社会保険に関する諸法令に基づく「書類作成業務」や「提出手続代行業務」などを行うことができません。なお、公的年金の受給見込み額の計算を行うことは可能です。

第2章 ライフプランニングの基礎知識

Theme 1 ライフプランニングの考え方

1 ライフプランニングとは

ライフプランニングとは、生涯にわたって自分と家族の生活を設計すること、つまり生涯生活設計のことです。

ライフプランニングを考えるうえで重要なポイントは、「健康」「経済」「生きがい」の3つです。これらはお互いに関連性があり、健康と経済を生活の手段とし、その上で人生の目標となる生きがいを作り、ライフステージごとにこれら3つのバランスを取ることが重要です。

《ライフプランニングの基本用語》

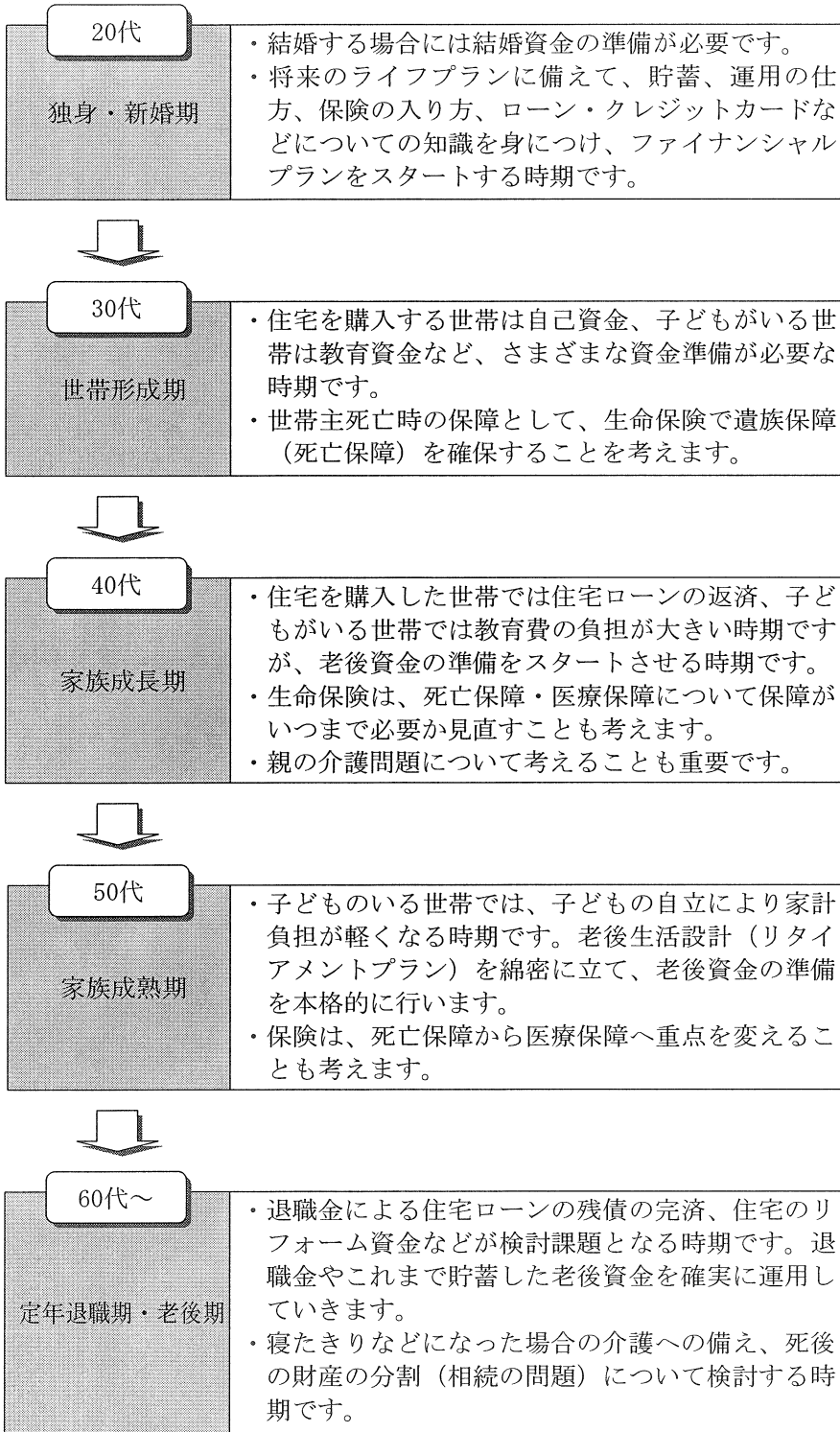
ライフデザイン	ライフプランの前提となる、自分自身の価値観に基づく「生き方」のデザインのことをいいます。
ライフプラン	生涯生活設計（健康・経済・生きがい）のこと。「暮らし方」としてのライフプラン（広義）と経済プランとしてのライフプラン（狭義）があります。
ライフイベント	結婚、住宅取得、教育、転職、独立、老後、介護、相続など、自分自身と家族に関するさまざまな将来計画（イベント）のことをいいます。
ライフステージ	「独身・新婚期」「世帯形成期」「家族成長期」「家族成熟期」「定年退職期・老後期」といった、年代別のライフイベントのことをいいます。

2 ライフステージごとの一般的テーマ

人それぞれライフデザインは異なり、ライフステージごとに各自各様のニーズがあります。昨今では、ライフスタイルが多様化しているため、ライフステージごとのニーズは画一的ではありません。だからこそ、人それぞれのライフプラン作りの必要性が増しているといえます。したがって、FPが顧客のプランニングを行う際には、その顧客のライフスタイルを十分に考慮したプランニングが重要です。

ただし、一方で、一般的な年代別ライフプランニングの特徴を把握しておくことも必要です。

《年代別ライフプランニングの一般的特徴》



Theme 2 ライフプランニングの手法

★★★

1 ライフイベント表の作成

ライフイベント表とは、自分と家族の将来の予定や希望（イベント）を時の流れに沿って表したものです。年号、年齢、イベント、予算や収入などをライフイベント表に盛り込むことにより、漠然としたライフイベントを再確認し、その費用と収入の数値化（現在価値）が図れます。

<ライフイベント表の例>

年号	年齢				イベント
	夫	妻	長男	長女	
	一郎	花子	太郎	良子	
2015年	43	41	13	11	太郎中学入学
2016年	44	42	14	12	マイホーム購入
2017年	45	43	15	13	良子中学入学
2018年	46	44	16	14	太郎高校入学
2019年	47	45	17	15	車の買換え
2020年	48	46	18	16	良子高校入学
2021年	49	47	19	17	太郎大学入学
2022年	50	48	20	18	
2023年	51	49	21	19	良子大学入学
2024年	52	50	22	20	
2025年	53	51	23	21	太郎就職、車の買換え
2026年	54	52	24	22	
2027年	55	53	25	23	良子就職
2028年	56	54	26	24	
2029年	57	55	27	25	住宅リフォーム
2030年	58	56	28	26	
2031年	59	57	29	27	車の買換え
2032年	60	58	30	28	一郎退職、良子結婚

※年齢は各年末時点の満年齢を記載

2 キャッシュフロー表の作成

キャッシュフローとは、一定期間（通常は1年間）における家計の全収入と全支出から把握される資金収支とその結果増減する貯蓄残高のことをいいます。これが単年のキャッシュフローです。

キャッシュフロー表は、現在の収支状況や今後のライフプランをもとに、将来の収支状況や貯蓄残高を予想し表形式でまとめたものです。これが連年のキャッシュフローです。

＜キャッシュフロー表の例＞

(単位：万円)

	年号	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
田中 一郎		43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳
田中 花子		41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳
田中 太郎		13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳
田中 良子	変動率	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳
収入	夫 収 入	1 %	590	596	602	608	614	620	626	633	633*
	妻 収 入	0 %			80	80	80	80	80	80	80
	そ の 他										
収 入 合 計			590	596	682	688	694	700	706	713	713
支出	基本生活費	1 %	240	242	245	247	250	252	255	257	260
	住 居 費	0 %	144	870	170	170	170	170	170	170	170
	教 育 費	1 %	75	71	94	98	101	113	199	138	236
	保 険 料	0 %	45	45	45	45	45	45	45	45	45
	その他の生活費	1 %	25	25	26	26	26	26	27	27	27
	一時的な支出	1 %				208					
支 出 合 計			529	1,253	580	586	800	606	696	637	738
年 間 収 支			61	▲657	102	102	▲106	94	10	76	▲25
貯 蓄 残 高		1 %	1,000	353	459	566	466	565	581	663	645

＜参考＞50歳以降、昇給はないものとして、夫の収入を見積っています。

※ 万円未満四捨五入

(1) 年収と可処分所得

キャッシュフロー表を作成するにあたり、収入欄には、年収ではなく可処分所得を記入します。

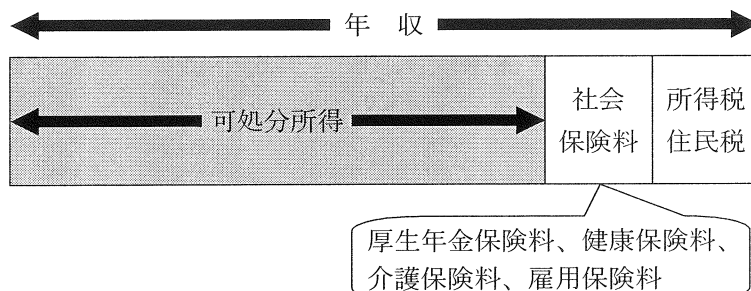
① 年 収

直接税（所得税、住民税）や社会保険料を含めた受取総額のことで、表面的な収入のことです。

② 可処分所得 学 科

自分で自由に使える（処分可能）お金のことです。会社員（給与所得者）の可処分所得は、年収から、必ず支払わなければならない所得税・住民税と社会保険料を差し引いた後の金額となります。

$$\text{会社員の可処分所得} = \text{年収} - (\text{社会保険料} + \text{所得税} \cdot \text{住民税})$$



(2) キャッシュフローの数値の見積り

キャッシュフロー表を作成する際には、ライフイベント表に「現在価値」で記入した予算や今後見込める収入を「将来価値」に直す計算を行います。収入、物価、教育費などの変動率（上昇率・下降率）の予測、貯蓄残高の運用利率の予測が重要になります。

- ・ 年間収支＝収入合計－支出合計
- ・ 貯蓄残高＝前年の貯蓄残高×（1＋運用利率）±その年の年間収支
- ・ ○年後の予想額（将来価値）＝現在の金額×（1＋変動率）^{経過年数}
- ・ 現在価値＝その時点での金額÷（1＋変動率）^{経過年数}

◆ケーススタディ

キャッシュフロー表中の（ア）～（ウ）に入る数字を求めなさい。

<キャッシュフロー表（一部抜粋）> (単位：万円)

経過年数			現在	1 年	2 年
西暦（年）			2015	2016	2017
平成（年）			27	28	29
		(変動率)			
収入	給与収入(夫)	1 %	590	596	602
	給与収入(妻)	—	210	210	210
	収入合計	—	800	806	812
支出	基本生活費	1 %	260	263	265
	住宅関連費	—	120	120	120
	教育費	2 %	200	(イ)	*
	保険料	—	45	45	45
	一時的支出	—		168	
	その他支出	—	30	30	30
	支出合計	—	655	*	*
年間収支			(ア)	▲24	144
貯蓄残高			360	340	(ウ)

*問題の都合上、一部空欄にしています。

(ア) 800万円－655万円＝145万円

(イ) 200万円×（1＋0.02）＝204万円

(ウ) 340万円×（1＋0.01）＋144万円＝487万円（万円未満四捨五入）

3 個人バランスシートの作成 **実技**

キャッシュフロー表を作成することで、年次ごとの現金収支は把握できますが、資産と負債の状況やその問題点の把握は難しいといえます。

個人の場合にも、企業の「貸借対照表」のように**資産と負債のバランスを示す「個人バランスシート」**を作成することで、資産と負債の状況を把握することができます。

なお、現状を把握する必要があるため、数値は取得価格ではなく**時価**で記入します。

＜個人バランスシートの例＞

【資産】		【負債】	
現金	100万円	住宅ローン	3,200万円
定期預金	600万円	自動車ローン	100万円
株式	300万円	負債合計	3,300万円
不動産(マンション)	2,500万円	【純資産】	350万円
その他動産等	150万円		
資産合計	3,650万円	負債・純資産合計	3,650万円

4 6つの係数を使った計算の仕方 学科 実技

知りたい金額があるときに、係数を使って計算すると簡単に算出できて便利です。係数には、①終価係数、②現価係数、③減債基金係数、④資本回収係数、⑤年金終価係数、⑥年金現価係数の6つがあります。

元となる金額に、該当の係数を乗じると知りたい金額が算出できます。

6つの係数表は巻末(p. 276～)に掲載しています。

◆Point： 係数の使い方

$$\boxed{\text{元となる金額}} \times \boxed{\text{係数}} = \boxed{\text{知りたい金額}}$$

<資料>係数早見表（年利4%の場合）

年	①終価係数	②現価係数	③減債基金係数	④資本回収係数	⑤年金終価係数	⑥年金現価係数
1	1.040	0.9615	1.0000	1.0400	1.000	0.962
2	1.082	0.9246	0.4902	0.5302	2.040	1.886
3	1.125	0.8890	0.3203	0.3603	3.122	2.775
4	1.170	0.8548	0.2354	0.2754	4.246	3.630
5	1.217	0.8219	0.1846	0.2246	5.416	4.452
6	1.265	0.7903	0.1507	0.1907	6.633	5.242
7	1.316	0.7599	0.1266	0.1666	7.898	6.002
8	1.369	0.7307	0.1085	0.1485	9.214	6.733
9	1.423	0.7026	0.0944	0.1344	10.583	7.435
10	1.480	0.6756	0.0832	0.1232	12.006	8.111

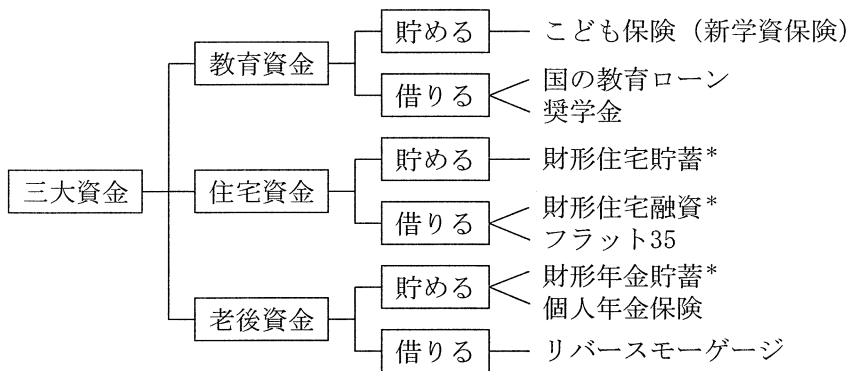
①終価係数 現在の額が将来いくらになるかを求める	100万円を利率4%で複利運用すると5年後にいくらになるか？ $100\text{万円} \times 1.217 = 1,217,000\text{円}$
②現価係数 将来の目標額から現在の額を求める	利率4%の複利運用で5年後に100万円受け取るには、今いくら必要か？ $100\text{万円} \times 0.8219 = 821,900\text{円}$
③減債基金係数 将来の目標額から積立額を求める	5年後に100万円にするためには、利率4%で毎年いくら積立てればよいか？ $100\text{万円} \times 0.1846 = 184,600\text{円}$
④資本回収係数 現在の額から受取年金額を求める	100万円を利率4%で運用しながら5年間で分割して受け取ると、毎年いくら受け取れるか？ $100\text{万円} \times 0.2246 = 224,600\text{円}$
借入額から年間返済額を求める	1,000万円を金利4%で借りて10年間で返済する場合の年間返済額はいくらか？ $1,000\text{万円} \times 0.1232 = 1,232,000\text{円}$
⑤年金終価係数 積立額から将来いくらになるかを求める	毎年100万円を利率4%で積み立てると、5年後はいくらになるか？ $100\text{万円} \times 5.416 = 5,416,000\text{円}$
⑥年金現価係数 希望の年金額から現在の額を求める	利率4%で運用しながら毎年100万円を5年間受け取るためには、今いくら必要か？ $100\text{万円} \times 4.452 = 4,452,000\text{円}$

第3章 ライフプランニングと資金計画

Theme 1 資金計画と金融商品



多額の資金を必要とする教育資金、住宅資金、老後資金を人生の三大資金といい、いずれも計画的な準備が必要ですが、そのための専用商品や適した金融商品があります。



財形貯蓄（勤労者財産形成貯蓄）とは、勤労者が事業者の協力を得て給与天引きで行う貯蓄のことで、一般財形貯蓄、財形住宅貯蓄、財形年金貯蓄の3種類があります。また、財形貯蓄を行って要件を満たせば、財形住宅融資を利用できます。

運用目的に合った金融商品を選択するには、金融商品の三大特性「流動性」「安全性」「収益性」を考慮します。

流動性、安全性、収益性のすべてに優れた商品は存在しません。

(1) 流動性

流動性とは、「現金化のしやすさ」のことで「換金性」ともいいます。

「流動性」…代表的な商品は普通預金です。

生活費、不意の出費に備えた予備費や、いつでも引き出せるようにしておきたいお金は、流動性の高い商品で確保します。

(2) 安全性

安全性とは、元本や利息の支払いに関する確実性をいいます。元本は保証されなくても、商品性格上、元本の確実性が高い商品もあります。

「安全性」…代表的な商品は定期預金です。

おおよそ5年以内に用途の決まっているお金（教育資金・住宅取得資金など）や老後生活資金は、安全性の高い商品で運用します。

(3) 収益性

収益性とは、利回りや値上がり益が狙えて大きくふやせるかどうかの度合いのことをいいます。元本割れのおそれがあるため安全性は低いですが、高収益が得られる可能性があります。

「収益性」…代表的な商品は株式です。

当面用途の決まっていない資金や余裕資金、長期投資が可能なお金（老後生活資金など）は、収益性のある商品を検討します。